



発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会

発行人
富田英雄

題字
故内山岩太郎筆



第43回 関東ブロック 保育研究大会

よここそ湘南藤沢へ
海・緑・太陽あふれる街、湘南藤沢で、去る七月三日から五日まで、第43回関東ブロック保育研究大会が藤沢市民会館を中心に開催されました。変革の時代の中で『子どもの“夢” “笑顔” “育てます”』をテーマに掲げた今大会は、梅雨の最中でしたが、神奈川の熱い思いが天にも通じたのか、三日間とも天候に恵まれ、アロハシャツ姿の役員のもと充実した大会となりました。



ふくざわ保育園（南足柄）の園児による元気な『金太郎わんぱく太鼓』で幕を明け、続いて職員による迫力ある和太鼓に会場中が魅了されました。式典に続いては、国の行政説明や全国保育協議会による事業説明で、最近の激変する保育状況に耳を傾け、鎌倉女子大学のすんだコーラスに心落ちつく初日となりました。二日目は11の分科会に分かれ熱心な研究発表・討議を。三日目は片岡鶴太郎師匠による人生に勇気を与えてくれるすてきな語りで幕を閉じました。

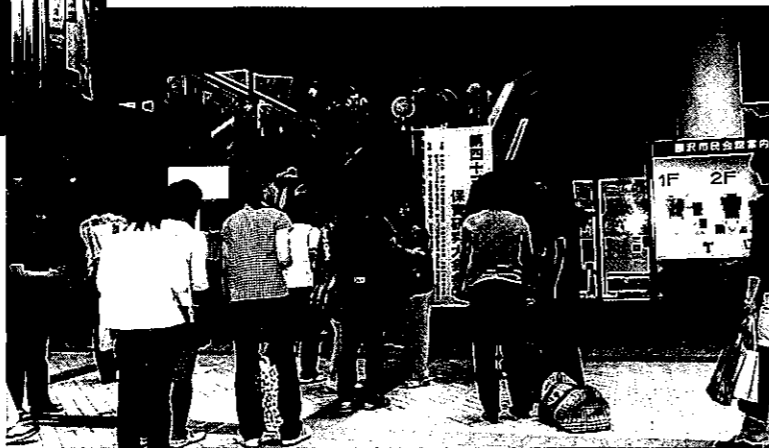


こどもの「夢」笑顔 育てます2002かながわ
第43回関東ブロック保育研究大会
7/3-7/5 東京都民会館ほか

ようこそ藤沢へ!!
目をひく駅の横断幕

にぎわった出店コーナー
“どれにしようかな?!”

各地区から参加者到着!



湘南の風

アロハもお似合い♡



活発な質問で
熱気あふれる会場!!



準備ができました。
皆さーん位置について!

アロハを着てプラカードを持ってお
客様のおでむかえです。



分科会が始まりました。

夢♡笑顔

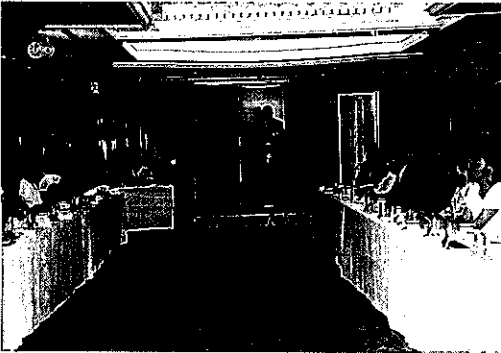
「第三者評価制度」
園長、主任の方々の
真剣な表情!!



調理師、栄養士、保育士
で給食について熱心に
討論された!

第三者評価事業の理解を深めるために

第12回児童福祉主管課長・保育会連絡協議会開催



「児童福祉主管課長と県保育会との連絡協議会」が、去る七月二十三日に、ホテルリッチ横浜で開催された。

冒頭、本会の富田会長が実行委員長となつて本県が主催した、関東ブロック保育研究大会（七月三日から五日・藤沢市）の開催あたりご後援をいただいた藤沢市をはじめ県所管各市町の運営・資金面での特段のご理解ご協力に対し、会長からお礼の言葉があり、幸い天候にも恵まれ、関東ブロック十四都県市から集まつた千二百名の参加者に有意義な時間をすごしていただけたであろうとの報告があつた。

またこの連絡協議会の開催趣旨に触れ、毎年、その時々重要なテーマについて市町児童福祉主管課長の方々と県保育会委員が一緒に研修する場であり、本年は特に「第三者評価事業」を推進していくための理解が深まることを期待して企画したと説明された。

次に、市町児童福祉主管課長、十七名の方々から、自己紹介とあわせて、保育に対する各市町取り組みについてのお話をいただき、引き続き来賓としてお招きした、田辺県児童福祉課長から各市町ならびに県保育会の県児童福祉行政への日頃からの協力に対する謝意が示され、さらに現在の保育を巡る多くの厳しい状況、すなわち、定員増を図つてもなお増えている待機児童問題、虐待、育児不安等の解決のために今後とも地域の子育ての中核機関としての保育園に寄せる県行政の期待が大であるご挨拶をいただいた。

県下の市町児童福祉主管課長の方々の中には、着任後間もない方もいらつしやること



から、本年は特に草山副会長により組織図をお示ししながら、県保育会の位置づけを、全国または、市町組織との連携、さらに県保育会の事業計画、事業報告等説明をした。

そしていよいよ本題に入り本年のテーマである「児童福祉施設に係る第三者評価事業の推進について」と題して、小峰厚生労働省保育指導専門官による講演が行われ、第三者評価事業の定義は提供するサービスの質を公正、中立な第三者評価機関が、専門的かつ客観的な立場から評価する事業であること、目的は、サービスの質の向上に係る取り

組みを促進する事と利用者が保育内容を充分把握できる様にする事、実施の背景として平成十年児童福祉法において地域住民に関する情報提供に関する努力義務が規定され、さらに平成十二年社会福祉法で事業者の利用者に対する情報提供、福祉サービス評価に係る努力義務が規定されたこと、さらに今後の実施の手順等詳細にお話をいただいた。

引き続き意見交換会に入り市町児童福祉主管課長の方々、県保育会委員双方から制度の周知及び評価基準の内容について、また実施するにあたり、評価に対する不安や評価側の人選など、活発な意見交換がなされた。

このあと、会場を移し県児童福祉課の方々、市町児童福祉主管課長の方々、そして県保育会委員が、会場内の随所で飲食をともにしながら、歓談する光景が見られ、「懇談会」から途中で「連絡協議会」に名称を変更し、通算十二回目となった本年の会も盛會裏に終了した。

地域と共に、更なる保育園の飛躍を！

第36回 神奈川県保育事業大会



去る四月二七日(土)、神奈川県社会福祉会館に於て、第36回神奈川県保育事業大会が開催された。

七月に関東ブロック研究会会を控えている為、例年より早い時期の開催でしたが、六百余名の参加を得、変革の時代の保育について熱心な研究発表・討議が行なわれた。

式典では永年勤続者六五名に感謝状が贈呈され、厚生大臣表彰・厚生大臣感謝状・県保育賞を受賞された方々に記

念品が贈られた。

来賓の皆様より、激変する社会情勢の中で、保育所の社会的役割の重要性と、期待を頂き、身の引き締まる思いがしました。

第一会場

”これからの公立保育所運営について考える”をテーマに、四つの発表があった。

横須賀市の健康福祉部子育て支援課の「地域子育て拠点として」の発表では、公立保育園としてどのように地域子育てを保育サービスに反映させるか、行政としての取り組みが話された。

小田原市の早川保育園岩本園長は「職員の意識改革の取り組みについて」幼・保両方の資格を持っている者を採用し、幼保交流事業を行っているという興味深い内容で、新しい試みに会場からは驚きの声があがっていた。

平塚市若草保育園園井平園長は「地域の連携について」主任児童委員との連携や保育士の派遣事業

の試みについてを。海老名市

子育て支援センターのあゆみを、柳田所長より発表され、公立だからこそ出来る他機関との連携の充実や取り組みの工夫が感じられ、変わろうとしている公立保育園の姿がどの発表にも強く感じられた。

第二会場

”子どもの食事・栄養を考える”、多様な保育ニーズへの対応を考える”をテーマに、三つの発表があった。

座間市保育士会では「食事を楽しむするために」子ども達に食べる事への関心を深めてもらおうと教材づくりに取りかかりその成果の発表を。また県保育会の給食問題委員会の報告では、食に関し園でやるべきこと、方針を明確にし、文書化して伝えることの大切さ等が発表された。

「地域に根ざす多様な保育ニーズについて」伊勢原市大原保育園萩原園長は、大原ふれあいセンター事業を始めてのメリット・デメリット等、模索しながらも前向きに考えているのが伝わってきた。

第三会場

”保育指針と保育実践を考える”をテーマに三つの発表があった。箱根町と湯河原町の三町11園では、身近な材料で創って遊ぼうと、廃材を使った保育実践の発表を。県保育士会保育内容研究会では、気になる子への関わり方を、絵本を通して研究し、子どもと一緒に楽しむことの大切さを。また、茅ヶ崎市保育士会保育内容研究会では「絵本」ととり、保護者にも絵本の良さを伝えたいと発表した。



新任保育士研修会



気持よい緊張感の中、富田会長による「新任保育士に求められるもの」で始まりました。昨今の保育事情について説明されたあと、保育士の役割がいかに大きくなってきたのかを話されました。そして、自分の健康管理はしっかりとっておこなう、感性をときず

ましておく、情緒あふれるやさしい言葉で話すなど、保育士としての心構えを具体的に伝えてくださいました。「親に喜んで子どもを生んでもらえるようにしよう」という熱いメッセージが印象的でした。続いては、「豊かな人間関係づくり」のタイトルで、FM湘南ナパサのパーソナリティ高橋律子さんのお話。二児の母とは思えないほど若くて美しい高橋さんは、さすがに「じゃべり」のブ

口、さわやかな語りかけに思わず引き込まれてしまいました。上手なコミュニケーションのとり方を参加者の実践をとおして気づかせてくれました。この実践では、上手に話すことより、相手の話をよく聞くことの重要性がよくわかりました。ま

た、保護者としての立場から自分に自信を持つてほしい、自分の力を信じてほしいとエールを送っていただきました。最後には、「私には世界平和という大きな夢があります。それは、家族の幸せから始まると思っていま



す。子どものときから、あたたかさや安心感を感じていたら、最終的には、世界平和につながるのではないのでしょうか。」との提言でしめくられました。

午後は、「保育者自身の表現、子どもにとっての表現」というテーマで、聖セシリア短大教授の大谷純一先生の実技指導がありました。身体感覚を高め、コミュニケーション能力を育み、誰もが参加でき、遊ぶことのできる表現教育をおこなっていただけるという先生は、リズムカルにそしてパワフルに参加者をリード。みんなそれぞれ自由な感覚で表現を楽しみ、歓声が途絶えることなく続いていました。一日をとおして、参加された方の、「一つでも多く吸収していこう」という意欲が感じられ、とてもすがすがしい気持ちで研修会を閉じることができました。終了後、お願いしたアンケートでも好評をいただきました。実りの多い研修会となりました。新任保育士のみなさんの今後のご活躍を心から祈りいたします。

編集後記

一都十県三市から千三百余名が湘南の中心地、藤沢市に集い「ともに育む子どもの笑顔」をメインテーマに関東ブロック保育研究大会が開催されたのはつい昨日のように思い出されます。

「笑顔と温い心で」をスタッフの合言葉に努めた三日間。参加者には満足感、そしてスタツフの笑顔と心意気がいつまでも消えることなく残るものと信じます。

スタツフの皆様には、素敵なアロハシャツと参加者の謝意に満ちた笑顔が思い出と共に残った事と思えます。

ご参加頂いた皆様には思い出を、都合でご参加頂けなかつた皆様には大会の様子をお届けしたく、大会関係の記事を中心とした紙面構成としました。

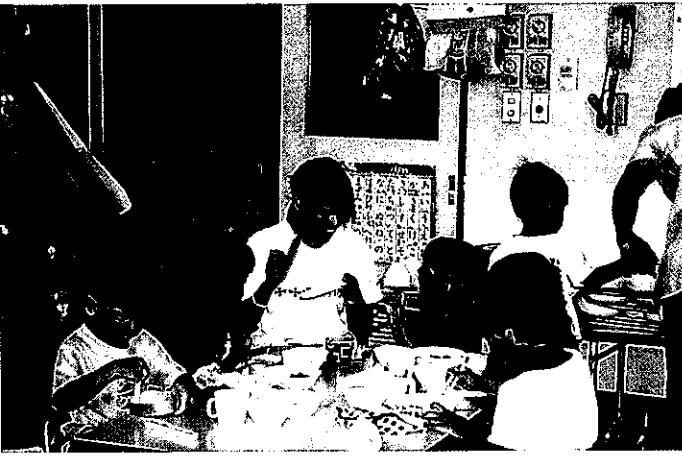
広報部員の意をお汲みとり頂ければ幸いです。

中高生との交流実践報告

大和市より

中学生との交流は、近隣の中学校から家庭科の授業の一環として協力依頼があり、始めてから二十年になる。最初は女生徒だけで、全員紺色の学生服で参加したため未満児達は、驚きと不安で保育士の側から離れられない場面もあったが、回を重ねるごとに慣

れ、生徒達が持参した手作り玩具で遊ぶ姿が見られた。男生徒も途中から加わり、肩車やおんぶ等男の子ならではの触れ合を喜び、何回も要求する子もいた。中学生の交流は現在も続けられ他の園にも広がり、卒業の時期には、お祝いやお別れに行くなど、交流が深まっている。中学の学習指導要領の改訂により「職場体験学習」や市・社



協で行う「中高生保育入門講座」の交流も実施している。生徒から来た、良き思い出になったとの感想が聞かれた。子ども達にはやさしく、丁寧に、守るように接し、可愛い、楽しかったと感じた事が将来、豊かな感受性を持つ大人への学習につながっていくことを望む。また、高校生との交流は、ボランティア

アとして受け入れていた。保育士を目差している生徒が多い。今後、ボランティア活動が盛んになり希望者も多くなる中、受け入れについて検討が必要な時期にきている。

今年の夏は、市教育研究所からの依頼で、中学・小学校の教師との交流もなされ、お互いの情報の交換をしい保育士の視野を広めるよい機会となった。

家庭をはじめ、近隣の中学校ひいては高校など、地域との交流を深めることにより、心豊かな子ども達の育成につながるものと信じる。

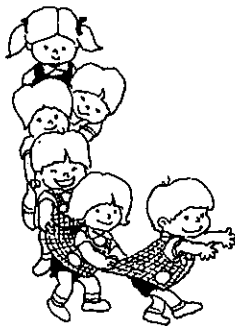
南足柄市より

南足柄市では社会福祉協議会により、昭和六十一年からボランティア体験学習事業をスタートさせ、夏休みや交流授業の中で、市内にある四ヶ所の保育園に近隣の中高生が訪問し、乳幼児と直接ふれあう事により、福祉への理解やボランティア活動への関心を深め、思いやりの心を育ててきました。

この様な交流事業を通し、地域の人々が恵まれた自然環境の中で連携を深めています。

今年度より一歩押し進め、総合学習の一環として、積極的且つ自発的なボランティアの心を育成する為に、各自が自主的に保育園を訪問し、保育ボランティア活動に取り組んでいます。

乳幼児と関る中で、子どもたちに向ける純粋な目差と笑顔、暖かな心は何とも微笑ましく驚ろかされるも



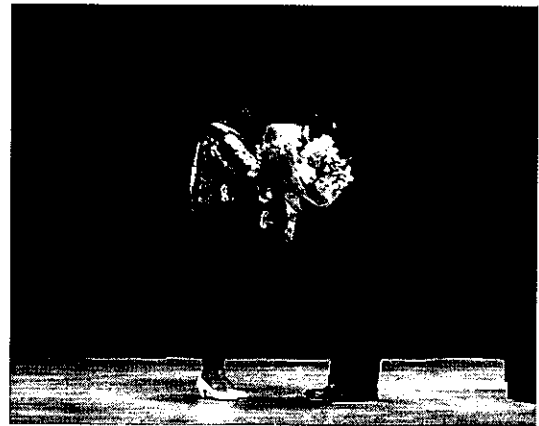


記念講演
 演題「流れのままに」
 講師 片岡鶴太郎 師匠

講演「流れのままに」
 満席の会場が
 鶴太郎師匠のオーラにつつまれました



大会は無事終了 スタッフのみなさん
 おつかれさまでした。



来年は茨城で会いましょう !!